

もんじゅ 運営交代 勧告へ

規制委「原子力機構 適当でない」

原子力規制委員会は4日、事実上の運転停止命令を出されている日本原子力研究開発機構の高速増殖炉「もんじゅ」(福井県敦賀市)で保守管理上の問題が繰り返されることに関し

て、同機構に代わる適当な運営主体を明示するよう求める勧告を馳(は)送(は)り、原子力機構に代わってどのような者が適当か、「具体的に特定して明示すること」や、さらに、明示できない場合は、もんじゅのあり方を抜本的に見直すことを要求。半年をめどに回答を求めるとしました。

田中俊一委員長は「もん



じゅの運転を原子力機構に止める命令を出しました。任せるのは適当でない」と指摘。文科相に対し、原子力機構に代わってどのような者が適当か、「具体的に特定して明示すること」や、さらに、明示できない場合は、もんじゅのあり方を抜本的に見直すことを要求。半年をめどに回答を求めるとしました。

もんじゅは2012年に多量の機器の点検漏れが発覚。規制委は13年、抜本的対策を講じるまで、もんじゅの運転へ向けた活動を停止しました。

↓ 関連⑤面

もんじゅ 廃炉しかない

1/5
赤松



日本原子力研究開発機構の高速増殖炉「もんじゅ」(福井県敦賀市)

機構くり返し違反行為

税金投入1兆円、運転実績ゼロ

原子力規制委員会が格と判断した日本原子力研究開発機構。2013年5月に1万件(福井県敦賀市)の運

近しい機器の点検漏れが、発覚し、規制委から運営主体として不適切とされた。運転を任せないとしたのは当然です。

「もんじゅ」は、原子力研究開発機構が再処理工場から取り出したプルトニウムを使用した核燃料サイクルという「核燃料サイ

「もんじゅ」は、原子力研究開発機構が再処理工場から取り出したプルトニウムを使用した核燃料サイクルという「核燃料サイ

「もんじゅ」は、原子力研究開発機構が再処理工場から取り出したプルトニウムを使用した核燃料サイクルという「核燃料サイ

「核燃料サイクル」もやめるべきだ

元中央大学教授(核燃料化学)の舘野(たての)淳さんの話。「もんじゅ」を動かす目的は、組織の活性化、いつ動かせるのか

「もんじゅ」は、原子力研究開発機構が再処理工場から取り出したプルトニウムを使用した核燃料サイクルという「核燃料サイ

クル」の柱に位置づけられています。一般の原発と違い、水や空気にふれると爆発的に反応する液体の金属ナトリウムで原子炉を冷却するため、特別に大きな危険があります。実際、1994

年、初臨界に達しましたが、1995年に配管からナトリウムが漏れる火災・爆発事故が発生し、14年以上停止。2010年5月に運転を再開したものの、トラブルが続き、同8月には重さ3・3トンの核燃料交換装置が

落下する事故が起き、再び運転できない状態になりました。運転開始から20年以上たちますが、事実上運転実績

はありません。しかも「もんじゅ」建設などにこれまで投じられた税金は1兆円規模に上り、現在も毎年200億円近く計上されています。国はたまたに廃炉を断すべきです。(原発)取材班

困難があるのに、政府がそれをまともに検討せず、「夢の原子炉」「資源が増える」などの美辞麗句で、もんじゅを推進してきたことです。もんじゅは、ただちに廃炉にすべきだし、もんじゅを柱にした、使用済み核燃料を再処理して取り出したプルトニウムを使う「核燃料サイクル」もやめるべきです。